



SCENE 1

佐渡の記憶

Memory of Sado

上田耕一郎 UEDA KOICHIRO

Department of Photography

わたしの旅は、いつも目的地をきめないで発つ。新潟の港からふと思いたち船に乗った。佐渡との出会いはそんな偶然であった。佐渡島に足を踏み入れたわたしは、都会の生活と違ったゆるやかな時間を感じた。

「佐渡の米はうめえちゃ。作物もいっぱいできるちゃ。」畑仕事をしているおばあちゃんが話してくれる。「大きなイカがとれたぞ！」漁師の親子が踊る。

ここには心が癒される何かがある。わたしは歩きながらどんどんこの島に惹かれていくのを感じた。この作品はそんなわたしの佐渡への思いのプロローグとなるだろう。



SCENE 2





SCENE 4



SCENE 5